とねの絆

第17号
古河市第13地区
発行
令和４年２月２８日
とねの絆
広報委員会

令和3年度 第13地区コミュニティ役員

◆役員紹介　※ 新任

地区会長	五月女光男（内水海）	理事	福島　勝美（北新町）
副会長	西沢　市郎（高　野）		桜井　一夫（内水海）
	小島喜久男（上砂井）		安岡　　実（内水海）
	※因泥周一郎（前　林）		※江田　裕之（前　林）
会計	飯田　　明（前　林）		※髙塚　　誠（上砂井）
監事	佐藤　博史（北新町）		※野口　五郎（町水海）
	森　　良明（砂井新田）		落合　隆之（高　野）
書記	※新井　紀一（町水海）		枝　　正男（砂井新田）
	大久保順一（高　野）		

◆各委員会　◎ 委員長　○ 副委員長

行政区	広報委員会	交通委員会	防災委員会
内水海	◎ 梁河　紀栄	○ 岡安　　実	桜井　一夫
町水海	能城　忠雄 ※ 谷地中　武	※ 野口　五郎	※ 大関　里志
砂井新田	枝　　和夫	枝　　正男	森　　良明
上砂井	※ 髙塚　　誠	小島喜久男	※ 永塚　元春
北新町	佐藤　博史	◎ 稲葉　信也	※ 駒崎　哲平
前林	※ 江田　裕之	※ 知久　　貴	※ 因泥周一郎 ※ 染谷　　隆
高野	○ 塩田　清七 落合　隆之	宇都木美喜男	◎ 大久保順一
水海小学校	（教　頭）　西　俊隆		
水海小ＰＴＡ	（会　長）　上野　征志		

※ 令和４年度　役員改選となります。（任期２年）

第十三地区コミュニティ

会長　五月女　光男

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。十三地区内の皆様におかれましては、日頃より地区コミュニティ活動にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は一昨年末から続いている新型コロナウイルス感染拡大により、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出され、日常生活や経済活動に大きな影響を生じました。そんな中でしたが、夏に東京オリンピックパラリンピックが開催されました。さらなる感染拡大が懸念されましたが、日本人選手の活躍が不安を払拭し、かつ、人々に勇気や感動を与えたのではないでしょうか。

今後の地区コミュニティ活動においても、安全第一を考慮して、今まで行ってきた活動が再開できればと思っております。

しかし、令和四年を迎えた早々、昨年十一月に発見された新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」が日本全体に感染拡大化しています。感染力が高いウイルスです。感染拡大を防止するためにも、マスク着用、沢山の人での集まりや会食を控えるなど一人一人が出来る対策を続けていきたいと思います。

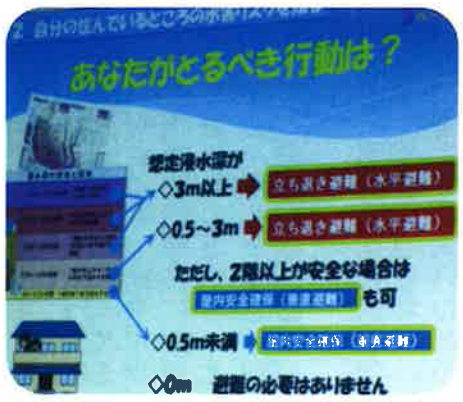
十三地区水防説明会報告

町水海　能城　忠雄

七月十三日に内水海改善センターで水防説明会が行われました。

当日は、古河市消防防災課の石井博之防災官から、令和元年十月に発生した台風十九号に伴う洪水の対応について緊迫した様子をお話して頂きました。台風の接近情報にあわせて、十一日に警戒体制を敷き、十六時に事前協議を、十七時には準備体制に変更し、十二日午前一時に警戒体制から対策本部の体制に移行したということです。対策本部では、群馬、栃木方面の降雨状況と利根川や渡良瀬川、思川の増水状況をもとに本部会議を開催し、一時間ごとに避難準備、避難勧告、避難指示を発令していったということでした。急激に河川が増水したため、迅速に避難所の開設や市民への情報提供、避難指示の発令、消防団など実働部隊への要請を実施したということです。

後日採ったアンケートから市の対応と住民の行動のギャップが明らかになり、今後①速やかに市民へ避難指示を伝達するなど情報発信力の向上、②避難所への誘導や車中避難、ペット随伴のあり方など避難所機能の向上、③近くの建物の避難や垂直避難などの避難場所の見直しなどが課題になったということです。



改めて住民へのお願いとして①ハザードマップの確認、②マイタイムライン（行動計画表）の作成、③利根川や笑多瀬川、思川の増水状況（インターネットやテレビの情報）を把握しておくことが提起されました。話の終わりには、自分は大丈夫だと考えないこと、過信が生じるので絶対に氾濫場所には見学に行かないことを強調されていました。

日に新たに

水海小学校長　石塚　邦彦

「日に新たに」と刻まれた記念碑が本校にはあります。新しい一日を迎えるたびに、自分自身を向上させるという意味で、昭和五十七年の第二回卒業生によるものです。昭和五十六年四月に、三つの分校が統合し、現在の水海小学校が開校しました。その年から、新しい一日また新しい一日を積み重ねて、今年四十一年目を迎えました。

昨年、コロナ禍で実施できなかった「四十周年記念式典」を今年は、児童の手による式典として十月に開催しました。百八十名の児童には、地域の方々への感謝の気持ちと歴史ある水海小の児童としての誇りを胸に、自分自身を向上させていってほしいと思います。

そのために、本校では、学校教育目標である「心身ともに健康でたくましく、主体的に学ぶ心豊かな児童の育成」に向け、教職員一同、日々の教育活動に取り組んでいます。その中でも今年は、児童一人一人が学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを重点とし、魅力ある学校づくりを進めていきます。

今後も、学校生活の基盤である「安全、安心な学校」に向けて、地域の方々には、温かいご支援とご協力をどうかよろしくお願い致します。

交通安全指導

委員長　稲葉　信也

交通安全立哨活動を実施しています。

交通安全週間に合わせ十三地区では、継続的に地域貢献活動「交通安全立哨活動」を交通委員三〇名程で、地元の水海小学校、釈迦小学校付近の交差点十カ所で定期的に実施しています。

のぼり旗を持ち交通安全に対する意識啓発をするとともに、こどもたちの登校を見守りながらの活動です。

今後とも見守り活動に皆様の参加をよろしくお願いします。

町水海セブン交差点

新4号高野歩道橋

水海小学校入口十字路

前林交差点

釈迦西交差点

創立四十周年を迎えて

水海小六年　倉沢　麗華

水海小学校は創立四十周年を迎えました。水海小学校は、卒業していった先輩方の学びと笑いと、時には泣いたり怒ったりしたたくさんの思い出とともに四十年という時を歩んできました。卒業生一八八九名の思い出がたくさんつまっています。そして、それはわたしたち在校生一八〇名に「水海小の児童らしさ」として受けつがれています。

四十年間大切に受けつがれてきたなかの一つに、校歌があります。校歌は、多くの人々が関わり、苦労して創られたそうです。

水海小学校を卒業した私の姉は今でも校歌をおぼえていて、時々家で私と一緒に歌っています。行事などで水海小に来たときには「昔とぜんぜん変わっていないな」といって懐かしんでいることもあります。

また、平成十四年の卒業生は体育館の壁に、平成七年の卒業生は多目的室の壁にそれぞれ校歌の詞を記念品として残してくれています。

このすてきな校歌を今は大きな声で歌うことはできませんが、これからも大切にしていきたいと思います。

これまで水海小学校を守ってきてくださった先輩の皆様、地域の皆様への感謝の気持ちを忘れずに、私たちもこの学校を守っていきます。これからもよろしくお願いします。

３年生　スーパーボール作り

２年生　さかなつりゲーム

水海小フェスタの思い出

水海小一年　羽ぶ　はる人

ぼくは、水海小フェスタで友だちといろいろなお店へ行きました。スーパーボール作りやバスボム作り、おめん作りをしました。

自分たちのお店は、魚つりです。ぼくは、魚を数えるかかりをしました。みんな楽しんでくれてうれしかったです。

実行委員　歴史紹介
「校章の説明」

40周年記念式典
実行委員長のことば

市長と語ろう まちづくり

町水海　能城　忠雄

十一月八日(月)、中央公民館で「市長と語ろう　まちづくり」が開催されました。今回は「数字から見る古河市」～これからの都市づくりに向けて～というテーマで、市長から、これからの古河市についてのお話を伺いました。古河市の人口は二〇〇〇年をピークに人口が減少しており、急激な減少が起きる（二〇四〇年には一三・二％の減少の推計も）と地域経済活動の減速、伝統行事やイベントの消滅、市の財政力や行政サービスの低下が懸念されるとのことでした。

人口減少の克服の例として、ＪＲ東北本線沿線の小山市と久喜市の例を挙げて説明されました。それによると、人を呼び込む施策が重要であり、市としてキャッチアップ・プロジェクトと銘打ち、「選ばれる都市づくり」のプロジェクトを進めているとのことでした。選ばれるためには、古河市に以前からあるものを「磨く」という発想で、圏央道の活用（古河ＩＣのハブ化）、古河駅前エリアの魅力アップ、観光地域づくりを図るということ、さらに「足りないものは補う」という視点で、大型複合商業エリアの形成、芸術文化活動の活性のため古河市公会堂の再建、民間事業者を支援する起業者等交流拠点の創出を行い「選ばれる都市づくり」を進めているとのことです。

後半では、十三、十四地区の住民との意見交換が行われました。住民からは、「インフラで大切なのは道路であるが、狭く拡幅が必要である」、「商業地区なのか住宅地区なのか不明瞭である、整備をすることが必要ではないか」、「農業地区についても特色を生かした施策を進めて欲しい」などの意見が出されました。

短い時間でしたが、市長のまちづくりのお話や住民の方々からの意見を聞くことができ、古河市の現状についての理解と展望について見通しを持つことができました。

功労感謝の会に代えて

第十三区長　早乙女　光男

コロナ禍で、昨年と今年、多くの行政区で功労感謝の会が中止になりました。緊急事態宣言の下、行動の自粛が求められ、住民の皆さんも心がふさがれている気分になっておられるのではないかと思います。

「社交」という言葉があります。文字どおり、人と人とのつきあい、世間のつきあいを意味しますが、社会学という学問としてみると、社会を成り立たせる原点なのだそうです。ところが、ソフトボール大会、バレーボール大会、運動会、関東ド・マンナカ祭りなど住民の皆さんの交流と親睦の場、社交が軒並み中止となり町内会の話し合いの場も、制限されてしまいました。

第十三地区・地区コミュニティの役員会では、心がふさがれている気分から解放され、住民の皆さんに元気になってもらいたい、さらに地域つくりに貢献していただいた先輩方に謝恩の気持ちを表したいということで紅白饅頭と小学生の手紙、粗品を添えてお配りすることにしました。

当日は、各行政区役員が対象となる方々のご自宅をお伺いしました。唐突にお伺いしたので始めは困惑された表情を浮かべておられましたが、紅白饅頭をお渡しし敬老感謝の気持ちを伝えると笑顔を浮かべてお礼を頂戴致しました。少しは「社交」になったでしょうか。

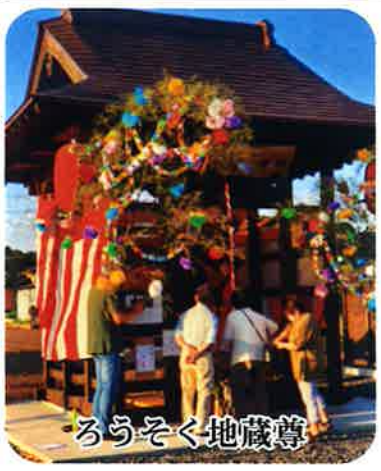
高野ろうそく地蔵尊祭

高野　大久保　順一

新型コロナ禍の中、高野行政区では昨年と同様に規模を縮小したり、時間を短縮したりして、八月二十三、二十四日にろうそく地蔵尊祭を開催しました。今年も地元や近隣の人達が参拝に訪れて、世話人に自分の体の悪い所と同じ所にロウソクを頼みお地蔵さまに上げ、拝んでいました。また、新型コロナウイルスが早く収まってほしいと祈る人もいました。「全身お願いします」「頭と肩に」と注文はさまざまでした。お地蔵さんは人々の病を引き受けて、全身が火だるま状態になりました。

このお地蔵様は今から三百年前の享保四年に建立されたとあるが長年のろうそくの火で地蔵尊は焼け崩れてしまい、昭和十一年の十一月に台座はそのままで、地蔵尊像だけを再建して現在に至っています。

今年も昨年と同様に新型コロナで盆踊りや花火大会も出来ずに残念です。来年こそは盛大に出来ればと願うばかりです。



編集後記

令和三年度後半から新たなウイルス「オミクロン株」の感染が全国に急速に広まり、十六都県より国へ緊急事態宣言の要請があり、さらに一月末には感染症が猛威をふるい、まんえん防止措置の十八道府県への追加が決まった。計、三十四都道府県）

令和三年度は、古河市も事業・活動の制約を受けてきました。第十三地区コミュニティでは「とねの絆」十七号を発行しました。皆さんのご協力ありがとうございました。

（二月八日現在　古河市の感染者数二、八八六名　昨年の一三・一倍）

広報委員長　梁河　紀栄